



アレルギーや感染症、0歳から対応

漢方薬で「やさしく」治療

子どものアレルギー症状や感染症を、漢方薬で治そうとする親子が増えている。確かに一般的な西洋薬に比べ、体にやさしいイメージがある漢方薬。「子どもには強い薬を使う前に、できれば副作用の少ない薬を」という親心だろうか。甲府市内のクリニックを訪ねてみた。

〈山本久美子〉

「実際には逆ですね。強い薬を飲んでも治らないといって来院する人がほとんど」。こう話すのは甲府・健友堂クリニックの菅原健院長。まずは小児科、耳鼻科、皮膚科などを一通り受診してから、漢方薬にたどり着くケースが多いようだ。

漢方薬は0歳児から使うことができ、同クリニックの患者も生後間もない乳児から高齢者まで幅広い。子どもの受診理由で

は、アトピーや水いぼなどの皮膚疾患、副鼻腔炎や中耳炎、花粉症などの鼻炎、風邪などの感染症が多いという。

独自調合の薬も

西洋薬と漢方薬の違いは何だろうか。「どちらも植物などの生薬からできているが、作り方が違う。西洋薬は有効成分だけを抽出して作るが、漢方薬はそのままの生薬を2種類以上ブレンドして作る」と菅原院長。同クリニックでは独自に調合した薬も処方。症状そのものだけに応じて、西洋薬に対し、漢方薬は一人一人の体調や年齢に合わせた「オーダーメードの薬」と言えそうだ。

同クリニックでは、子どもの皮膚疾患に対する外用薬は主に、熱冷ましの作用がある中黄膏、血流をよくする作用がある紫雲膏、殺菌作用のある白雲膏を使い分けて処方する。「西洋薬には治療薬がない」とされる水いぼも黄耆健中湯で治るといい、副鼻腔炎や中耳炎には、鼻の粘膜の腫れをひかせる薬が

診療にあたる菅原健院長。漢方薬で子どものアレルギー症状や感染症を治そうと来院する人が多い=甲府・健友堂クリニック

効果的という。

ウイルス性感染症では、風邪のほかノロウイルスやロタウイルスにも有効な薬があるという。さらに「食物アレルギーにも効果がある」と話す。「小麦粉のアレルギー以外は、漢方薬で粘膜を強くすることでどんな食べ物も食べられるようになる」アレルギー体質の改善にも効果を発揮するという漢方薬。ただ「子どもには少し飲みにくいのではないか」との疑問には、「どんな症状の子でも、初めは黄耆健中湯などの甘くて飲みやすい薬から始め、慣れてからほかの薬を処方するよう工夫している」と菅原院長。「即効力はない」のでは」というのも誤解で、「症状によるが多くの場合、1回から効く。赤ちゃんは一粒飲むだけでも効果が出る」という。

より手軽な薬浴

生薬を風呂に入れる薬浴という方法もあり、入浴剤を求めて来院する人もいる。手などの温疹で1カ月ほど前から長女(5)が受診する広瀬美香さん(45)=甲府市城東2丁目=は「飲み薬よりも手軽で子どもには使いやすい」と話す。

菅原院長は「漢方薬にはさまざまな種類があり、体质や症状に合わせて最適な薬を決めていく。体調を整えるのは漢方薬の得意分野。強い薬を使う前に一度、試してほしい」と話している。